

埼玉県納税貯蓄組合総連合会 優秀賞

私を支えてくれていた税金

藤沢中学校 三年 菊地原 天音

私は税金が大嫌いだった。両親がどんなに働いても結局、刑務所の悪い人達の食事に使われたり、私が税を納める頃には年金ももらえなくなる可能性が高いのになぜ払わなければいけないのだろうと不満だったからだ。

ある日、教科書の裏をふと見てみるとこんな事が書かれていた。「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待を込め、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」

驚いた。しかも気になって他の教科書を見てみると全てにそう書かれていたのだ。この時、自分は今まで税について知った「つもり」になっていた、しかも批判的な面だけしか見ていなかったのだと反省した。自分が税金に支えられているなんて思いもしなかったからだ。

そこで、少し税に興味が出てきたため、調べてみた所、学校のイス、机、ロッカーなども税金で保証されている物で、私が中一の時に支給されたタブレットもそうだと言う事が分かった。なぜこんなにも高価な物を無償で貸してもらえるのだろうと不思議だったが、両親ががんばって働いてくれた給料から出る「税金」のおかげという事を知り、さらに大切にしようと思った。

そして何よりも驚いたのは、「給食」の予算の半分が税金でまか

なわれているのだ。私は毎日、給食のために学校に行っていると言っても過言ではない。特に「うずらの卵」など自分の好きな食べ物が出る時は気分が上がる。その事を母に言うと、母は

「普段家で食べられない物も安く食べられるのが給食のありがたい所よ。でも、それを安く食べられるのも税金のおかげって事ね。税金に感謝だわ。」

と言っていた。おいしい給食を食べられるのは当たり前ではなく、税のおかげなのだ実感した。

私は税のおかげで勉強に集中できる環境であったり、安心して学校に通えるのだなと感じた。また、刑務所の人や悪い人だけではなく、自分も支えられていた事も知れた。なので、自分の頃に年金はもうないかもしれないが、未来の子供たちに楽しく、安心して学校に通ってほしいので、しっかりと税金を納めようと思う。

その後、テレビを見ていたら、

「俺らの税金を返せ」「もっと税金安くしろ」と言う税に関する批判的な意見が出されていた。前の私なら共感していたが、今の私はそう言う人も自分が税によって支えられている事を知り、税のありがたさに気づいてほしいと思った。

もう私には、教科書の裏に書いてあった、「税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」と言う言葉が前見た時よりも何倍も心に響くようになっていた。